

京都市小学校「大文字駅伝」大会について

昭和62年から実施し、京都の冬の風物詩として市民に親しまれてきた京都市小学校「大文字駅伝」大会（以下「大文字駅伝」という。）について、大きな成果とともに、様々な課題も提起されてきており、コロナ禍での中止を機に、今後のあり方を検討するため、令和3年3月に、小学校長会等の主催団体で構成する『京都市小学校「大文字駅伝大会」在り方検討会議』（以下「検討会議」という。）を設置し、1年間以上にわたる議論を行ってまいりました。

本検討会議での検討の結果を踏まえ、大文字駅伝の成果と課題、今後の方向性等について概要を御報告いたします。

1 現在の大文字駅伝の実施概要

(1) 趣旨

郷土の歴史的風土に関心を持ち、冬の厳しい自然の中を全区間完走することにより、自己の役割を自覚し、協力し合う態度を育てるとともに、児童の体力向上及び学校体育の充実を図ることを目的に、昭和62年2月から実施。なお、令和2・3年度は、新型コロナウイルス感染拡大に伴い、本大会を中止（予選会も中止）。

(2) 対象者等

市内小学校6年生（市立小学校全校参加と国・私立・民族学校のうち希望校）

(3) 形式

①区間 8区間 12.385 km（選手8（男女各4）、補欠4（男女各2））

②出場 48チーム※（市立小学校46、国私立・民族学校2）

※市立小学校の支部ごと（全16支部）及び「国私立民族学校」で予選会を行い、各予選会の代表（2～4チーム）が出場。

(4) 主催・共催

①主催 京都市小学校長会、京都市小学校体育研究会、京都市小学校スポーツ連盟、京都市教育委員会

②共催 京都青少年育成スポーツ財団、京都新聞社

2 成果と課題

(1) 成果

① 体力の向上

全校の6年生が目標に向かって練習することで、仲間同士が互いに切磋琢磨し、協力し合う態度が育まれるとともに、体力の向上につながっている。

② 児童にとって貴重な機会

6年生が頑張る姿を低学年が見て学校生活の目標にするという好循環が生まれる等の相乗効果が認められ、小学校での思い出の取組の一つとなっている。

③ 京都の冬のイベントとして定着

広く市民に親しまれ、京都の小学生の「憧れの舞台」として定着している。

(2) 課題

① 練習の過熱化

部活動ガイドラインの策定等により、学校における過熱感は抑えられているものの、予選を突破しなければ本大会に進めないため、校内での取組が予選突破を目標にした走力のある一部の児童を対象としたものになっている。加えて一部では、走力のある児童を集め、校外で練習が行われるなど、学校が実態把握や指導をしにくい状況もある。

② 学校の二極化

児童数減少に伴い選手数を確保することに苦労している学校も増加し、予選突破を目指す学校と予選に参加するだけの学校、という二極化も進んでいる。

③ 教員の多忙化

区間の見直しや式典の簡素化、スタッフ数の削減など、児童や大会運営者の負担軽減に努めてきたが、「英語の教科化」をはじめ高学年の授業時数増などに伴い、駅伝練習の指導に携わる6年生担任や陸上部指導教員の負担が増加している。

また、大会の運営に係る教職員（予選会で約900人、本大会で約700人）の負担は更に大きく、その人員の確保とともに、働き方改革の観点からも課題となっている。

④ 医学的な面

指導者向けの講習会、部活動ガイドライン策定により、足や膝等に異常を訴える児童は減少したが、依然として指導者間でスポーツ医学の知識に差があり、適切なトレーニング法が実践されていない実態もあると指摘されている。

3 今後の方向性

小学校段階では、様々なスポーツを行って筋力などバランスの取れた体の育成を促すとともに、自分にあったスポーツを見つけることが大切である。

そのため、「大文字駅伝」の取り扱いについては、引き続き検討を継続しつつ、学校規模等に関わらず、児童一人一人が自ら設定した目標に向かって継続的に取り組むことができ、希望するより多くの児童が本大会に出場できる取組や児童の体力向上に繋がる取組を新たに実施する。

- (1) 支部大会で出場校を決定し、公道を使用して駅伝を行う、従来の「大文字駅伝」を、当面の間休止する。
- (2) 令和4年度から、各校で、継続的に持久力を高める取組（持久走やランニング）を実施し、「校内記録会」を行った上で、その成果発表の機会として「全市交流会」を実施する。当面の間、本取組を実施し、成果と課題について検証する。

【新設の取組（案）】（令和2年度及び3年度に実施予定であった代替大会がモデル）

ア 校内1,000m記録会（10月～1月）

全校実施。全市交流会の予選会の位置づけ。

イ 全市1,000m交流会（2月）

令和4年度は、標準記録突破者を対象に「たけびしスタジアム京都」で実施予定。

- (3) 本市児童の体力・運動能力の課題から、筋力や俊敏性の向上を図る取組を併せて実施するよう検討する。